（別紙4）　　平成　25　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503122		
法人名	ゆうゆう株式会社		
事業所名	グループホームゆうゆう神谷川		
所在地	福山市新市町新市258－2		
自己評価作成日	平成26年1月	評価結果市町村受理日	平成26年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域との関わりで年2回の合同食事会や、夏祭りや敬老会、福祉祭り、防災訓練等で利用者様と一緒に参加できるものは参加し地域全体で支援をしてもらえるように、とりくんでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11－31－201
訪問調査日	平成26年3月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は利用者の一人ひとりの意欲や活動の範囲を狭めないようできる限り利用者の意向に沿うよう努め、利用者の希望で毎日数回外に散歩に出られる方もおられ、その為いきいきとした笑顔に繋がっている。階下と隣には小規模多機能事業所があり、地域とのイベントや防災訓練は合同で行い、利用者の見守り等相互の協力を行っている。研修、勉強会も全体で行い、又法人全体での段階に応じた研修や会議も盛んであり、それぞれの事業所の質の向上に繋げている。防災に関して意識も高く、幅広く研修や大会に出席され安全に生活して頂けるようにしている。職員全体的に優しい雰囲気にあふれ、利用者にとって家族のように自然体で生活されている。今後に於いても利用者の気持ちを大切に、ゆったりとしたスローライフが実現出来る事業所であり続ける事に期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

特定非営利活動法人 あしすと

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、提示している。	法人理念を基本とし、職員で意見を出し作りあげた独自理念を目につきやすい場所に掲示している。職員はそれを見て、意識を新たにもち、日々ケアの中で活かしている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練、夏祭り、保育所の餅つき行事等、地域へ積極的に関わっている。	併設施設全体として地域との関わりを持つよう取り組んでいる。町内から行事などの情報を頂き、参加できるものに出かけ、事業所をアピールしその中で交流の糸口を見つけている。事業所で開催する食事会には地域の住民の多くの参加が得られた。今後も更に交流を深めていく努力を惜しまず取り組んでいく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会活動や地域行事に参加し認知症の勉強会等の派遣講師ができる事をアピールしている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施し参考意見を取り入れています。	定期的に実施し幅広い参加者での会議となっている。勉強会や事業所の実情を報告しアドバイスを頂き運営に反映している。又、外部評価結果の報告も行い、事業所の取り組みをオープンにし課題等についても話し合い充実した会議である。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、支所会議などで意見交換をし協力関係を築いています。	支所会議に週1回出席し、情報交換や勉強会で行政との連携を取っている。近くにある為気軽に行く機会も多く顔なじみの関係を築いている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の勉強会を実施し、業務へ活かしている。	市からの資料を基に改めて拘束、高齢者虐待を含め会議の中で周知徹底をしている。グループワーク方式を取り、一人ひとりが再認識する機会を作った。安全に配慮しやむを得ず行う際には家族承諾のもと、期間を決めいろいろな改善方法を検討し恒常化しないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待も身体拘束同様、勉強会を実施し、起きないように、努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなかなかありませんが、勉強していかなくてはと、考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な話し合いを行い、意見を聞いて疑問や不安を解消し理解をして頂いてます。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や、家族会、面会時などに、積極的に話をしています。	定期的に家族会を開催し意見を求めている。家族来訪時日頃の様子を伝え会話の中で聞き取っている。問題点があれば家族と一緒に考えている。昨年法人が満足度アンケートをとり、サービスに反映させる取り組みを行った。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝　夕の申し送り、個人面談等で意見などを聞いている。	利用者の状態やサービス全般に亘り全体会議や部署会議に於いて話し合う機会がある。職員の意見は大切に受け止め、皆で検討している。慰労会の機会もあり本音でディスカッションする事もあり、忌憚のない意見を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を活用して、個々の適切な評価に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修や事業所内の研修を計画的に開催している。資格取得も会社の援助がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議に参加し、情報交換に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当制を設けており、御利用者様となじみの関係を築いていくよう努力しており、ご利用者様のお話をきくようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、入所後も家族の意見等積極的に聞いて不安のない関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネと連携し、本当に必要なサービスが何かを見極め、対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の立場で接し、楽しく共同生活ができるように、努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と協力しながら、共に支えていけるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を参考にして、また現在の思いを実現できるように、しています。	利用者が近郊の方が多く、馴染みある場所へ出向く機会が多い。馴染みの神社へ行き利用者の安堵や満足感に繋げる支援をされそこで利用者の記帳された名前をみて地域の方が安心されるといった場面もある。身内の方の定期的な訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	買い物や外出、その他行事をみんなで楽しめるようにして、自然に利用者様同士が関わりあえる、環境を作っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、困った時やその他相談等必要に応じて、受けています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の生活にそった生活を施設でも実現し、希望を叶えている。	半数程度思いを表出される方がおられるが、外に出るなど環境を変えて思いを聞き取る機会を作っている。主な希望としては食に関する事や外出の希望が多く、家族の意向も含めできるだけ取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に生活歴、意見　要望を聞きとり、サービスに反映しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用者様の一日の日課をたて、また朝夕の申し送り等で職員全員が状態を共有している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス　ミーティングなどで意見を出しサービス向上に努めている。	アセスメントを基にカンファレンスで職員や病院からの情報を基にプランを作成している。毎日プランに沿っているか否かの評価を行っている。また、モニタリングも定期的におこない次のプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有ノートの活用と、朝　夕の申し送り等で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時代の流れや、ご利用者様の状況の変化に対応できるように、柔軟なサービスを取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の散歩や買物などを通じて、関係を深めていき、地域全体で支援していく環境を作っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医師と連携をとりながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医やかかりつけ医と夜間や緊急時も指示を仰ぐ事ができ連携を取っている。歯科や他診療科目の受診も適宜行っている。家族と状態の把握について情報共有も図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があればすぐに看護師に相談できる環境を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、地域連携室と連携し、家族と話あいをしながら、最善をつくしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応を最初に家族と話あい、また状況により、その都度話し合いをもち、家族様の意向に添うようにしている。	看取りに関する勉強会は同法人で経験された事業所での事例を基に具体的な内容で行いっている。現在まで経験はされていないが、指針について家族に説明し随時意思確認を行い要望があれば行っていく予定である。協力医療機関との連携も取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル等で備えをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や、地域の防災訓練、市の消火訓練大会に参加して、技術　知識を勉強しています。	地域主催の防火訓練に参加し、地域との相互協力関係をとっている。事業所は併設施設と合同で昼夜想定で訓練を行い、又、市主催の防火競技大会や防火安全研修に参加し意識向上に役立てている。運営推進会議で協力要請を行い、今年は訓練参加に向けてお願いをされる予定としている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけやドアのノックなど個人を尊重した対応を心がけています。	基本丁寧な声かけに徹しているがあまりかたくならないように気をつけている。慣れ合いになったり意識が低下してきたと感じられた時には都度注意している。法人全体での研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや、希望を叶えられるように、常に心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表を作り、その人らしい生活ができるように、努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御利用者様の好みを優先し、その人らしい身だしなみを心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様の好みを把握し、食事作りや外食を通じて、食事を楽しんでもらっている。	数名の方が職員と一緒に下ごしらえや片づけをされ、利用者の意欲を大切に共に行っている。必ずねぎらいの言葉をかけ利用者の満足感に繋げている。利用者が食べやすい形態でしっかり食べていただく事としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた食事量と野菜お肉のバランスを考えた食事を作っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをし、何かあれば、受診や往診で対応しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導等行い、排泄支援をしています。	だれでも一目でわかるチェック表を作り個々に合わせて誘導を行っている。便秘予防に心掛けて食事や運動に気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に気をつけ、主治医からも処方してもらい、体調管理をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時を決めてますが、本人様の希望に沿って入浴を楽しんでもらっている。	基本的には時間や回数は概ね決まっているがその日の体調、気分に合わせて柔軟にしている。清潔に心がけゆったりとした気分で職員と会話をし入浴を楽しんで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを大事にし、夜間よく眠れるように、日中活動をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や家族と連携して薬を管理し、担当者が責任をもっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみのある生活を常にこころがけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望を優先した、個別の外出をしています。定期的な外出もしています。	家族と共に動物園へ出かけ、家族とのふれあいの機会を作られている。花見や大型スーパーに出かけ外食をして帰ることもある。同法人の事業所へ遊びに出掛けることもあり楽しみの持てる生活へと繋げている。毎日数回散歩される方もおられ、気分良く一日過ごしてもらっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は職員がお金を管理してますが、御利用者様が使いたい時には、希望にそった買物をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば実施、職員が代わりにする事が多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間を広々使い、ゆったりとすごしていただいています。	明るく窓面が多くとられたリビングは外の風景が見え開放感があり生花や観葉植物は心和ませるものとなっている。利用者への配慮で畳コーナーを手作りし、そこへソファを設置し利用者が安楽に過ごせるく工夫がある。テーブルも複数あり利用者が自分の過ごしやすい所でゆったりくつろがれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー　丸テーブル　こたつなどを活用し、快適な空間を心掛けてます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大事な写真、趣味の絵など飾り、家庭におられた時と変わりない空間をめざしています。	心地の良さに配慮され温湿度にも気を配り、タンスや昔を回想させる写真等利用者の自分の部屋といった雰囲気である。施設的にならないよう家庭に近い環境となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一に自立支援の立場で、張りのある生活を心掛けています。		